

第二次

こおりやま

ユニバーサルデザイン

推進指針

概要版

ユニバーサルデザインとは…

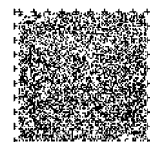
障がいの有無や年齢、言語、性別等の違いにかかわらず、はじめからできるだけ多くの人を使いやすい製品や建築・都市環境、サービスなどの提供を目指す考え方です。「Universal」(すべての、万人の)と「Design」(計画、設計)を組み合わせた言葉で、頭文字をとって「UD」とも言われます。



郡山市UDキャラクター
「こころころ」

UD

郡山市



ユニバーサルデザインの7つの原則

ユニバーサルデザインによるまちづくりやものづくりなどをする時には、7つの原則があります。

- | | | |
|-----|----------|------------------------|
| 原則1 | 公平性 | —誰もが公平に利用できること— |
| 原則2 | 自由度・柔軟性 | —使ううえで自由度が高いこと— |
| 原則3 | 単純性 | —使い方が簡単ですぐ分かること— |
| 原則4 | 分かりやすさ | —必要な情報がすぐに理解できること— |
| 原則5 | 安全性 | —ミスや危険につながらないこと— |
| 原則6 | 負担の少なさ | —少ない力でも楽に使用できること— |
| 原則7 | スペース等の確保 | —アクセスしやすいスペース等を確保すること— |



指針の概要

郡山市では、誰もが自分らしく、より快適な暮らしを送ることのできる「ユニバーサルデザイン社会」を目指し、2009年（平成21年）に、「こおりやまユニバーサルデザイン推進指針」を策定し、各施策にユニバーサルデザインの考え方を反映させ、協働によるユニバーサルデザインのまちづくりを継続的に進めてきました。

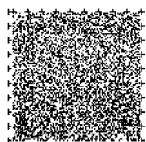
今回、本市を取り巻く環境の変化などに対応するため、まちづくり基本指針の分野別個別計画として、8年間（2018～2025年度）を計画期間とする「第二次こおりやまユニバーサルデザイン推進指針」を策定しました。

ユニバーサルデザインの対象には、小さな子どもから高齢者まですべての年代の方、男性・女性だけでなく性同一性障がい等も含めた様々な方、多様な国籍や文化をもつ方、手話も含め様々な言語を話す方、障がいのある方、難病の方、妊産婦の方、怪我をしている方等、すべての人が含まれます。



音声コード

音声コード対応の携帯電話などで読み込むことで、音声コード内に収められた情報を音声で読み上げたり、テキストで表示したりできます。



指針の基本的な考え方



次の3つ視点のもと、みんなで一緒にユニバーサルデザインに取り組みます。

気づき

～思いやりを行動へ～

周りの困っている人や生活の中での不便さに気づき、思いやりの心をもって行動し、形にしていきます。

広げる

～地域・暮らしへ～

地域や暮らしなど、身近なところから、ユニバーサルデザインの考え方を広げていきます。

つなぐ

～継続する取り組み～

UDは終わりのない取り組みです。思いや、ノウハウをつなぐなど、継続した取り組みを行います。

指針策定の背景

少子化の進行
高齢化の進行

妊産婦や子ども連れにも配慮したまちや、高齢者が不便を感じずに日常生活が送れるような地域社会が必要。

障がい者数の増加

障がいのある方もない方も地域で暮らし、お互いの理解のもと、必要な支援や合理的な配慮がなされる環境が必要。

グローバル化への対応

すべての言語に対応することは困難であり、「やさしい日本語」などの多言語化以外の配慮も必要。

ICT（情報通信技術）の進展

ICTの利活用とともに、ICTを利用できない方への支援や、多様な媒体による情報発信などの配慮が必要。

意識調査結果

安全・安心に対する取り組み、分かりやすい情報発信など、ハード・ソフトとともに、思いやりの心を育てることが必要。

あるべき将来像（基本目標）

誰もが暮らしやすいユニバーサルデザインのまち



障がいの有無や年齢、言語、性別等の違いにかかわらず、誰もが「住んでいてよかったなと思えるまち」を目指します。



指針の体系

基本方針	基本施策
基本方針 1 (ハート) ユニバーサルデザインを 実践できる ひとづくり	(1) 思いやりの心があふれるひとづくり (2) 多様性を認め、いのちと人権を尊重するひとづくり (3) 誰もが利用しやすく安全・安心な交通・移動環境
基本方針 2 (ハード) 安全・安心な ユニバーサルデザイン の施設整備	(4) 誰もが利用しやすく安全・安心な施設 (5) ICT (情報通信技術) を含めた多様な媒体を 活用した誰にでも分かりやすい情報伝達
基本方針 3 (ソフト) 人にやさしい ユニバーサルデザイン の情報・サービス	(6) 利用者の立場に立ったサービスとおもてなし (7) 市民協働によるユニバーサルデザインの推進 (8) 災害時のユニバーサルデザインの推進

基本方針



4つの項目にポイント
を置いて取り
組めます。

市民総活躍の推進

セーフコミュニティ活動の推進

ICT (情報通信技術) の活用

グローバル化への対応

基本方針 1 **ハート** ユニバーサルデザインを実践できるひとづくり

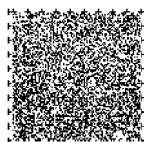
ユニバーサルデザインの考え方を知ってもらうための広報や啓発を図るとともに、ユニバーサルデザインを実践できるひとづくりに取り組みます。

基本方針 2 **ハード** 安全・安心なユニバーサルデザインの施設整備

誰もが快適に自ら行きたい場所に行けるよう交通・移動環境の充実を図るとともに、公共施設は、安全・安心、快適に利用しやすいよう整備します。

基本方針 3 **ソフト** 人にやさしいユニバーサルデザインの情報・サービス

ICTを活用した分かりやすい情報発信・情報収集を進めます。
行政サービスは、「おもてなし」に焦点を当てた取り組みを推進します。





施策全体の成果を図る全体指標と、基本施策ごとの成果を図る基本指標を定めます。

全体指標（全体の成果を評価する指標）	現況値（2016）	目標値（2025）
市民意識調査におけるユニバーサルデザインのまちづくりに関する満足度	59.1点	70.0点

主な基本指標

基本指標（基本施策ごとの成果を図る指標）	現況値（2016）	目標値（2025）
ユニバーサルデザインの出前講座の参加人数	411人	500人
おもいやり駐車場利用制度協力施設数（累計）	122施設	140施設

基本施策（主な取り組み）

基本施策1 思いやりの心があふれるひとづくり

誰もが高齢者や障がい者、妊産婦、外国出身者などの目線で見える力を養い、相手の立場に立った行動ができるよう、意識づくりを進めていきます。

主な取り組み内容

- ◆ イベント、広報紙などによる普及・啓発
- ◆ 各種講座等による人材育成
- ◆ 市職員の意識の醸成



視覚障がい者の擬似体験の様子

基本施策2 多様性を認め、いのちと人権を尊重するひとづくり

人の多様性や相違を認め合い、誰もが共に生き、真の豊かさを感じることでできる社会の実現のため、人権尊重、多文化共生、障がい者理解などの推進に取り組む人材の育成を図ります。

主な取り組み内容

- ◆ いのちと人権の大切さに対する意識の醸成
- ◆ 人の多様性についての正しい理解の普及・啓発
- ◆ 障がい者マーク等に対する正しい理解の普及・啓発



障がい者のための
国際シンボルマーク



盲人のための
国際シンボルマーク



耳マーク



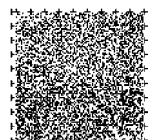
ほじょ犬マーク



マタニティ
マーク



ヘルプマーク



基本施策3

誰もが利用しやすく安全・安心な交通・移動環境

一人ひとりがその意思で、どこにでも自由に、円滑に移動できる環境のため、各施設間の移動のしやすさの確保や、サービスの連続性の確保に努め、ユニバーサルデザインに配慮した公共交通の充実を図ります。

主な取り組み内容

- ◆ 歩道設置や段差解消など円滑な移動の確保
- ◆ 利用しやすい公共交通機関
- ◆ 交通安全・防犯対策への取り組み



エレベーター設置など
UDに配慮された郡山富田駅

基本施策4

誰もが利用しやすく安全・安心な施設

施設を改修又は新たに整備するときは、ユニバーサルデザインの考え方にに基づき、できるだけ多くの人々が利用しやすいように配慮し、様々な利用者の視点を大切にしながら整備を図ります。

主な取り組み内容

- ◆ 車いす・オストメイト（人工肛門・人工ぼうこう）などに対応した多機能トイレの整備
- ◆ 導線や連続性を考慮した案内板の整備
- ◆ 公共施設の点検と改善



オストメイト対応トイレ

基本施策5

ICTを含めた多様な媒体を活用した誰にでも分かりやすい情報伝達

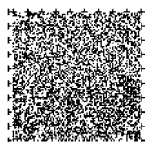
誰もが分かりやすく、必要な情報を確実に得られるよう、情報を受ける側の手段や特性に配慮し、ICT利活用のほか、多様な媒体による情報発信を行います。

主な取り組み内容

- ◆ 見やすい文字や配色による情報発信
- ◆ 多様な媒体、複数の知覚による情報伝達
- ◆ Wi-Fi利用環境の整備



ICTを活用した手話通訳の様子



基本施策6

利用者の立場に立ったサービスとおもてなし

常に利用者の視点に立ち、年齢や性別、言語や身体的特性の違いなどにより不便を感じさせないサービスの提供に取り組むとともに、「おもてなし」の意識づくりを進めていきます。

主な取り組み内容

- ◆ ICTを活用したサービスの提供
- ◆ 多言語や普通の日本語より簡単で分かりやすい「やさしい日本語」の使用
- ◆ ピクトグラム（絵図記号）、音声コードの活用



発話内容がタブレットに表示される
ライブトーク

基本施策7

市民協働によるユニバーサルデザインの推進

ユニバーサルデザインを推進するため、行政だけでなく、市民やNPO法人、市民活動団体、事業者などが、それぞれの立場を尊重し、協働で取り組んでいきます。

主な取り組み内容

- ◆ 市民参画の機会充実
- ◆ 協働による普及・啓発
- ◆ ユニバーサルデザイン製品の調達や利用



こおりやまユニバーサルデザイン
サポーターとの啓発活動の様子

基本施策8

災害時のユニバーサルデザインの推進

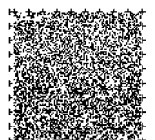
災害時において、誰もがその命と生活を守るため、ユニバーサルデザインの視点で、できるだけ多様な方法で誰もが災害に備えられるよう環境を整備します。

主な取り組み内容

- ◆ 災害時の避難体制整備
- ◆ 多様な媒体による災害情報提供
- ◆ 様々な人に配慮した避難所の運営



コミュニケーションボード



配慮が必要な方への取り組み

高齢者の特徴・配慮

- 疲れやすく、転びやすくなる
- 高い音が聞こえにくい
- 視界がかすむ、視野が狭い
- 指先の動きが鈍い



⇒個人差が大きいので、相手に合った対応を
⇒相手のペースに合わせながら、敬意をもって
温かい対応を心がけましょう

視覚障がい者の特徴・配慮

- 全盲の方、弱視の方がいる
- 見える範囲が狭い方もいる
- 現在位置や方角が分からず、
移動するのが大変



⇒話しかけるときは、必ず名乗ってから
⇒誘導するときは、肩や肘を掴んでもらい、
半歩前を歩きましょう

車いす利用者の特徴・配慮

- 目線や手が届く範囲が低い
- 段差を乗り越えるのが大変
- 狭い通路は利用しづらい



⇒話しかける際は、少し屈んで同じ目線で
⇒段差やドアで困っている人がいたら、本人の
意向を確認してから手伝いましょう
⇒車いすでも利用しやすいスペース確保を

色弱者の特徴・配慮

- 日本人男性の5%、女性の
0.2%が色弱者
- 赤色や緑色が識別しにくい



⇒色だけではなく、形や太さで違いを出す
(太字にする、下線や輪郭をつけるなど)
⇒色弱者の見え方が分かるメガネやスマホ用
アプリを使って、色づかいを確認する

妊婦の特徴・配慮

- 足元が見えにくく、バランス
を崩しやすい
- 臭いに敏感になる



⇒身体へのいたわり、気配りを
⇒無理な体勢をとらないよう配慮しましょう

聴覚障がい者の特徴・配慮

- 失聴の方、難聴の方がいる
- 相手の口の形を読み取って
いる方もいる



⇒手話、筆談など、相手に合ったコミュニケーション
方法を(全員手話が分かるとは限らない)

外国出身者の特徴・配慮

- 日本語の能力に個人差が
ある
- 日常生活の習慣や文化が
異なる



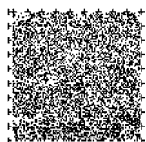
⇒案内などには、日本語のほか、多言語表記や
絵文字の併記を
⇒出来るだけ簡単な日本語やふりがなを使いま
しょう



手話マーク

筆談マーク

※音声以外に対応可能なコミュニケーション
手段が、誰にでも一目で分かる「手話マーク」
「筆談マーク」を活用しましょう。



2018年3月発行
郡山市 市民部 市民・NPO 活動推進課
電話 024-924-3471 FAX 024-931-5186
E-mail : shiminnpokatudou@city.koriyama.lg.jp



この印刷物は、適切に管理された森からの木材を含むFSC®認証紙と、
環境にやさしい植物油インキ、UDフォントを使用しています。